

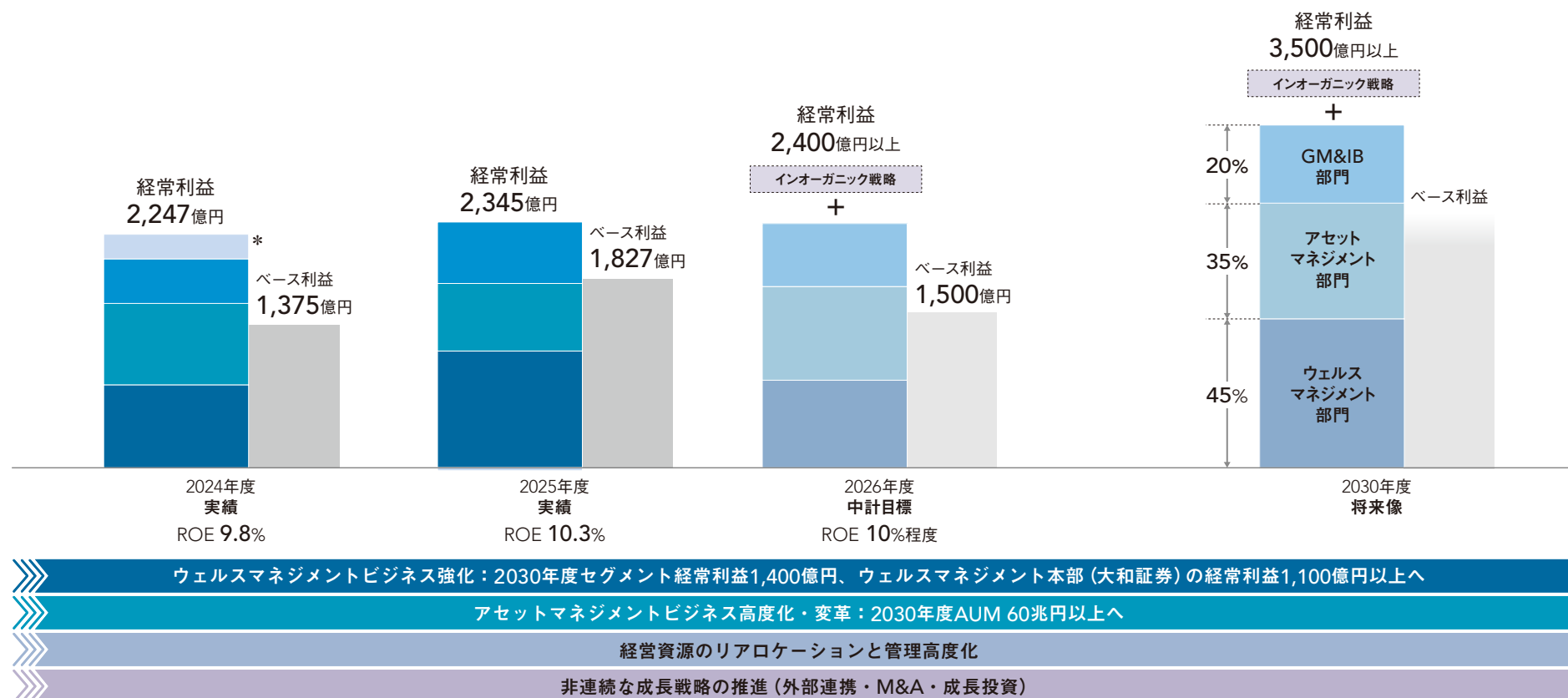
成長戦略の全体像

2030年度に目指す将来像

当社グループは、外部環境に左右されにくい収益構造の構築を将来像に掲げ、2030年度に経常利益3,500億円以上の達成を目指しています。この目標の実現に向けて、特定の部門に依存することなく、各部門がそれぞれに利益成長を図るとともに、インオーガニックな成長戦略を推進することで、より高いROE水準を持続的に実現していきます。

ウェルスマネジメント部門では、お客様からの預り資産に連動する残高ベース収益の拡大を通じて、ウェルスマネジメントビジネスの一層の強化を図ります。2030年度には、経常利益1,400億円、うち大和証券のウェルスマネジメント本部で1,100億円を超える水準を目指します。アセットマネジメント部門では、債券・株式・不動産に加え、オルタナティブファンドを含む幅広い商品ラインナップの拡充を進めます。運用資産残高の増加とアセットマネジメントビジネス基盤の強化を通じてビジネスの高度化と変革を推進し、2030年度に60兆円以上のAUMを目指します。

あわせて、各ビジネスの資本収益性を厳格に精査し、不採算ビジネスの縮小・撤退を進めることで、成長ビジネスへの経営資源のリアロケーションと管理の高度化を図っています。さらに、非連続な成長を実現するため、外部有力企業との連携やM&Aといったインオーガニック戦略も積極的に展開しています。



* その他・調整等 (注) 2026年度中計目標と2030年度将来像は2024年5月公表時点

成長戦略の全体像

中期経営計画の進捗と今後のさらなる成長に向けた課題

2025年度の経常利益は、2,345億円となりました。部門別に見ますと、ウェルスマネジメント部門は1,120億円となり、中期経営計画の目標である840億円をすでに3割上回る水準に達しました。一方で、お客様の負債を含めた総資産へのアプローチには、なお大きな成長余地があると捉えています。オリックス銀行の子会社化により新たに加わった銀行機能をフルに活用し、総資産コンサルティングの一層の深化と、安定収益の飛躍的な拡大を目指します。

アセットマネジメント部門は654億円となりました。2025年度は、オルタナティブアセットマネジメントの投資案件において減損・引当を計上したことが、利益を押し下げる要因となりました。今後は、証券アセットマネジメントにおける投資顧問分野の競争力強化、不動産アセットマネジメントにおける私募ファンドも活用した持続的なAUM拡大、オルタナティブアセットマネジメントにおける外部資金の導入を通じたアセットマネジメントビジネスへの転換といった課題に対する施策を着実に進め、AUMの拡大と収益力の向上を図ります。

GM&IB部門は、グローバル・マーケットが下期に大きく回復したことに加え、グローバル・インベストメント・バンキングの経常利益が過去最高を更新し、589億円となりました。今後は、グローバルな資本市場の変化や顧客ニーズを的確に捉え、持続的な収益拡大につなげていくことが重要と認識しています。

これら各セグメントにおける課題への対策を着実に進めることで、グループ全体のさらなる利益拡大を目指します。

	経常利益 2026年度目標	経常利益 2025年度実績	達成度*	成果	課題
WM部門	840億円	1,120億円	◎	総資産コンサルティングの深化と安定収益の飛躍的な拡大を目指す	
WM本部	680億円	913億円	◎	◆ 安定的な収益基盤の構築が進展し、ラップ口座サービスの契約資産残高は6兆円を突破 ◆ 外部連携の強化によりお客様基盤が拡大	◆ お客様の負債も含めた総資産へのアプローチ ◆ 法人マーケットのさらなる拡大
大和ネクスト銀行	160億円	211億円	◎	◆ 預金残高が5兆円を突破	◆ 預金残高の拡大余地、金利上昇による恩恵の享受
AM部門	910億円	654億円	△	AUM拡大とそれに伴う収益の向上を目指す	
証券AM	320億円	376億円	◎	◆ 投資顧問およびオルタナティブ分野の強化を通じて、安定的な収益基盤の構築が進展 ◆ 運用資産残高の積み上げに加え、収益機会拡張により、計画を上回る利益を実現	◆ 投資顧問分野における差別化・付加価値向上を通じた競争力強化
不動産AM	385億円	330億円	○	◆ 私募REITの物件取得や私募ファンドの運用受託を通じたAUMの着実な拡大 ◆ インフレおよび金利上昇局面における安定的な運用の継続	◆ インフレ・金利上昇局面における持続的なAUM拡大施策 ◆ サムティグループのビジネスモデル転換およびバリューアップへの継続的なサポート
オルタナティブAM	205億円	-52億円	△	◆ 既存投資案件のExitにより着実にトラッキングレコードを蓄積 ◆ プライベート・エクイティ分野におけるアセットマネジメントモデルへの転換	◆ 外部資金導入によるアセットマネジメントモデルへの転換
GM&IB部門	605億円	589億円	○	グローバルな資本市場の変化を的確に取り込み、収益機会の最大化を図る	
GM	395億円	408億円	◎	◆ 日本株や債券の運用ニーズの高まりを的確に捉え、海外機関投資家を中心に取引が拡大	◆ 株価上昇、「金利のある世界」における収益のさらなる拡大
GIB	190億円	145億円	△	◆ 国内普通社債、地方債およびSDGs関連債のリーグテーブルにおいて1位を獲得 ◆ グループM&A関連収益は過去最高を更新	◆ 多様化する資金調達手段への対応 ◆ M&A案件の大型化・グローバル化への対応

* ◎:達成、○:80%以上、△:80%未満